

(別紙 4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月12日

【評価実施概要】

事業所番号	1290100013		
法人名	社会福祉法人 友和会		
事業所名	グループホーム ピアポート千寿苑		
所在地	〒260-0025千葉県千葉市中央区問屋町6-4 (電 話) 043-204-8400		
評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA		
所在地	〒270-1151千葉県我孫子市本町3-7-10		
訪問調査日	平成21年2月19日	評価確定日	平成21年3月27日

【情報提供票より】 (平成21年1月26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年4月1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤9人, 非常勤 3人, 常勤換算	9.7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り 併設型		
	6 階建ての 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	光熱水20,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (300,000円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 600 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,500 円		

(4) 利用者の概要 (1月26日現在)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護 1	1	要介護 2	4
要介護 3	5	要介護 4	6
要介護 5	2	要支援 2	0
年齢	平均 84.8 歳	最低 67 歳	最高 97.4 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	轟診療所・三愛記念そが病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当苑は「社会福祉法人友和会」が運営しており、法人の総合力には家族と地域からの大きな信頼がある。地上6階建てビルの2階にあり、上層階からは千葉埠頭が眼下に開け、ホテルや行政関連諸施設とも隣接する都市型のグループホームである。特養・ショートステイ・デイサービス等との併設型施設で、ロビー等共用部分や居室共に広く明るい造りであるが、リーズナブルな利用料金で提供している。反面、日常的な散歩や外出とか自然とのふれあい面ではおのずから制約もある。この4月で開設まる3年を迎えるが、施設長、職員一体となって開設当初の諸問題の一つひとつ整理して着実に改善に取り組んでいる。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回の外部評価は管理者(現施設長)が入社直後でもあり、評価結果を踏まえて職員間で問題点を共有し改善に取り組んだ。今回の利用者家族等アンケートでは、12項目全ての項目で前回に比べて大幅に満足度が上がっており、その成果が確認できる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	今回の自己評価は施設長が中心となり、幹部職員3名で現状を確認して取りまとめた。介護度の高い利用者が多く入居しており、簡単に解決できない継続課題も多いので、引き続き着実な努力を期待したい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	平成20年度は運営推進会議を3回実施予定である。本年度は代表者並びに幹部職員と利用者家族に加え、千葉市介護相談員、民生委員の参加を得て開催し、苑の運営状況を説明すると共に出席者から希望やアドバイスを頂いた。3月に予定している推進会議では、見取りの体制について具体的な説明と意見交換の予定であり、関係者の都合に合わせ3回に分けて実施する。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	面会時のコミュニケーションを大切にして意見や苦情に耳を傾けている。又、ご意見箱等も設置し家族の率直な意向の把握に努めている。今回の利用者家族等アンケートにも積極的に協力を呼びかけ、回収率が高かった。家族の意向は都度関係職員で検討し、苑として対応することや家族にも協力してほしいことを誠意をもって説明して好感を得ている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	グループホームと同じフロアにある「地域交流スペース」を近隣の住民や自治会等に開放しており、ご近所の方と日常的に交流がある。その縁で近隣の子供会主催の行事や地元の花火大会等に招待され利用者と一緒に参加している。また近郊自治会の当苑見学会等も多数回受け入れて、グループホームについての理解を深めてもらうとともに交流をはかっている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「いつも馴染みの環境で、ゆったりと楽しくその人らしい暮らしの中で喜びと自信を育てましょう」という分かり易い理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	渚・湊の2つのユニットの玄関に、それぞれトールペイントと墨書による手作りの理念が掲示がされており、出入りの者が親しみながら理念を共有できる工夫をしている。職員も理念を良く理解し実践している。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	グループホームと同じフロアにある「地域交流スペース」を近隣の住民や自治会等に開放している。その縁で地域の行事に招待されたり、近郊自治会主催のグループホーム見学会を快く受け入れる等により、日常的に交流をはかっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果は、職員間で共有し改善に取り組んだ。利用者家族等アンケートからもその成果が確認できる。今回の自己評価は施設長が中心となって幹部職員3名で取りまとめた。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成20年度は運営推進会議を3回実施予定である。本年度は代表者、施設長、幹部職員と利用者家族に加え、第三者として千葉市介護相談員、民生委員の参加を得て開催し、運営状況の説明や意見交換を行っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	千葉市高齢者介護課が行政の窓口であり、医療連携体制の申請手続きや、施設運営上の問題などにつき都度相談し指導を仰いでいる。千葉市グループホーム連絡会主催の市担当者との懇親会にも必ず参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月請求書送付時にユニットごとに発行する苑だよりに加えて、1ヶ月分を纏めた個人別サービス記録、金銭管理表を同封して報告しており、利用者家族にも好評である。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時のコミュニケーションを大切にしているが、運営推進会議、ご意見箱、苦情受付窓口等各種の機会を通じて意向の把握に努め、都度関係職員で対応を検討の上、誠意をもって家族に説明して好感を得ている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年初めに採用間もないパート職員の離職が重なったが、基本は離職が見込まれる時は1～2ヶ月くらいの引継ぎ期間を取って、なじみの関係を作りダメージが極力少なくするよう心がけている。異動等は毎月の苑だよりでも家族に報告している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	千葉市主催の管理者研修、実践者研修や千葉市グループホーム連絡会主催の各種講座に、必要に応じて順次出張扱いで参加させている。また、施設内でも随時内部研修を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者が千葉市グループホーム連絡会の会長、施設長が事務局を務めており、連絡の会行事の企画運営等を通じて業界全体の向上に努めている。連絡会の諸行事や研修会も当苑の「地域交流スペース」で開催することが多い為、職員も積極的に参加させている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学を兼ねて遊びに来てもらう、ショートステイ利用の方には日中に寄ってもらう、入院先から入居される方には病院に行ってお話を伺うなどして顔馴染みになってもらいスムーズなサービスの提供につなげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の会話の中で良かったことや失敗談などの話題でおしゃべりし、その中から介護のヒントや慰めを得たりするなど支えあいながら生活している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前面談及びその後の利用者・家族とのふれあいのなかで希望やニーズを把握し、その人らしい生活が継続出来る様に努めている。意向表出が難しい方には表情や行動からその思い等を推察し、その方に沿った支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式の活用により職員は普段の生活の中で常に本人の意向確認に努めており、それを参考に複数のスタッフで意見を出し合い、本人および家族の希望・意向が反映された介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的な見直しの他に、変化が生じた場合はその都度、本人や家族、複数のスタッフで話し合い新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	1 階のデイサービスに遊びに行ったり、一般浴が困難な方は特養施設の特殊浴が利用できたり、看護師に医療的な協力をしてもらったりなどの柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	おおむね協力医療機関が掛かりつけ医であり、通院付き添いは家族にお願いしている。緊急時は職員が同行受診し、医師の診断内容を家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りについての希望確認のアンケートを実施し、3月の運営推進会議で見取りの体制について全家族に具体的な説明と、意見交換を予定している。看護師を常勤配置し、医療連携加算の手続き中であり、重度化や終末期に備えて準備を進めている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録の取り扱いや保管に注意することや、利用者の羞恥心に配慮した言葉かけ等について、ユニットミーティングや都度の個別指導でプライバシーの確保に努めている。契約書や運営規定にも明記し徹底に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	高齢になるに従い、ADLの低下が見られる方も増えてきたので、一人ひとりのペースを大切に捉え、その方に沿った暮らしが出来るよう支援している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昨夏にはベランダ菜園での大収穫の苦瓜を、炒め物やサラダにして皆で食事を楽しんだ。ADLの低下により一緒に食事の準備や片付けが出来た方が少ないため、ごく簡単なこと以外職員が全て行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回を基本とし午前、午後とも提供しており、希望をお聞きして入浴時間を決めている。入浴を好まれない方には「温まりに行こう」などの言葉掛けをして、入浴を勧めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	苑の行事への参加や買い物の同行などを通して役割意識を持ってもらうように努めている。また本年度は、福祉バスでの浅草見物や認知症メモリーウォークで市内を皆で歩いたり、成田山へ初詣など外出行事も計画的に実施し、本人や家族からも好評であった。	○	苑のお出掛け支援に対して、アンケートには感謝の言葉が寄せられており、希望も多い。これからも出来る範囲内で高齢者の馴染みの場所への外出の支援をお願いしたい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	周辺は交通量が多く、日常的な外出は制約もあるが、近くのスーパーへ個人的な買い物の同行をしたり、同じフロアの談話コーナーを散歩したり、上階の特養施設の見学したりなどして利用者の歩行支援に努めている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ビルの2階に位置するグループホームであり、無断外出される利用者の安全の確保のために、渚棟は玄関を施錠している。	○	玄関の施錠が閉鎖的な感じを与えているようであるので、一考をお願いしたい。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の指導の下、全施設共同で避難訓練をしており、グループホームの夜勤者が夜間緊急災害時の通報の担当者である。消火器などの備品や設備の点検、夜間想定訓練も実施している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥む力や飲み込みの悪い方には軟食やミキサー食の調理方法にし、状態により栄養補助食品の摂取などを通して栄養のバランスに配慮している。またトロミ剤を使うなどして水分量が確保出来る様にしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南側に面した居間は日差しの強い時間帯は、ロールカーテンを利用したり、照明で明るさの調整をしている。前面にはぐるとベランダが回り、ベランダで植栽をしたり遠景を望んだり出来、居心地良く過ごせるような工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドと箆笥は備えられている。愛用の小物や写真など思い思いの使い慣れたものが持ち込まれ、入居前からの生活の延長が感じられるように工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。